

# 阿蘇草原再生レポート

活動報告書 2008



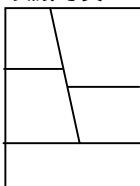
# 目次

はじめに	P 1
1. 活動結果報告	P 2
平成 19 年～平成 20 年度 阿蘇草原再生の取り組み状況	P 2
活動報告(1) 様々な形で牧野の利用と維持管理を続ける	P 6
活動報告(2) 動植物でにぎわう草原を再生する	P21
活動報告(3) 草原に理解、愛着を持つ人を増やす	P23
活動報告(4) 野草資源を活用する	P32
活動報告(5) 草原と結びついた観光を進める	P35
阿蘇草原のいとなみと協議会の 1 年(平成 20 年度)	P37
2. 阿蘇の草原は今 各種統計調査による阿蘇の草原の現状	P38
3. 阿蘇草原再生協議会の活動	P40
(1)組織	
(2)阿蘇草原再生全体構想	
(3)「活動計画」と「活動結果報告」のしくみ	
(4)活動年表	
参考：協議会構成員名簿	

## コラム

1. 協議会構成員の牧野を紹介します	P14
2. 草原にはいくつかの顔があります	P16
3. 阿蘇の草原キッズプロジェクト	P28
4. 野草資源の新たな利用に向けて	P34
5. 阿蘇の草原をフィールドにした研究者の活動	P34

### 表紙写真



北外輪木落牧野での草原環境学習  
中央火口丘周辺 長野牧野の放牧風景  
秋の採草地風景 らくだ山周辺村山牧野  
ボランティアが参加した夜峰山野焼き再開  
ユウスゲが咲き乱れる往生岳北麓黒川牧野

## はじめに

世界最大級のカルデラ地形の上に広がる広大で優美な阿蘇の草原。

この草原は、採草、放牧、野焼きなど地域の人々の営みによって生まれ、自然と人間との共生により引き継がれてきました。

農業・畜産業との密接な関わりのなかで継続的に維持され、人々の生活に恵みをもたらしてきた草原は、草原特有の動植物の宝庫であり、生物多様性保全の場としてかけがえのない価値を有しています。また、四季折々に変化する草原や牛馬の放牧風景は、国立公園阿蘇の景観を構成する重要な要素であり、年間 1,900 万人もの観光客を魅了しています。阿蘇の草原は九州中部から北部にある 6 本の一級河川の源流域にあたり、さらに雨水が地下浸透しやすい環境にあることによりもたらされる豊富な地下水は、熊本市民をはじめ九州中・北部、約 230 万人もの人々の暮らしにうるおいを与えています。

様々な価値を有する草原が今、危機に瀕しています。生活様式の変化や畜産業の低迷などにより、近年、面積の減少や藪化などの荒廃が目立つようになり、人々により守り継がれてきた豊かな自然に恵まれた草原が、その姿を変えつつあります。

このような中、かけがえのない阿蘇の草原を未来に引き継いでいくため、草原に関わる様々な団体や個人が集まって、平成 17 年 12 月に阿蘇草原再生協議会が設立されました。

協議会では、19 年 3 月に「阿蘇草原再生全体構想」を策定し、構成員はその目標や考え方を共通認識として、様々な取り組みを進めています。

全体構想策定から丸 2 年が経過して、構成員それぞれが協議会に提出した活動計画について実施結果や成果を報告し合い、年間の取り組みの結果としてとりまとめ、報告できるようになりました。

本レポートにより、多くの方々に阿蘇の草原保全・再生に向けた活動状況を知っていただき、さらなる活動展開や理解促進につながっていくことを期待しています。

阿蘇草原再生協議会  
会長 高橋 佳孝

### 「阿蘇草原再生レポート」の発行について

本レポートは、協議会構成員による草原再生に向けた活動について、前年度 1 年間の活動状況を取りまとめて報告するものです。今回の 2008 年版を第 1 号として、今後、毎年発行していく予定です。

構成員の方々から提出された活動結果報告から、全体の活動状況や全体構想で示した取り組みの進捗等を把握し、それぞれの取り組みのさらなる展開や、草原保全・再生に向けた活動の輪を広げていくために活用していきます。